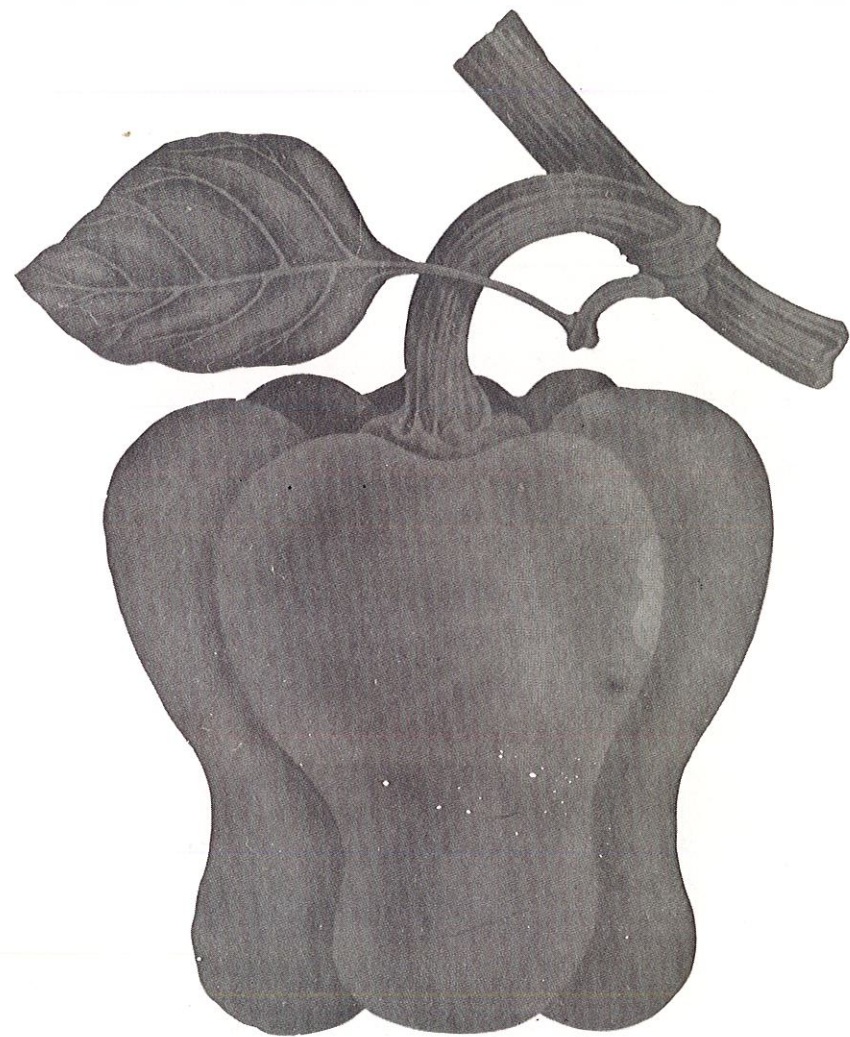


中信の定期積金プランであなたの明日を



ミドリノーしましょう。

中信

⑤ 京都 中央信用金庫

本店・四条烏丸西 TEL223-2525(大代)

**DOSHISHA
GLEE
CLUB
THE
73RD
ANNUAL
CONCERT**

**DOSHISHA
GLEE
CLUB
CLOVER
CLUB
JOINT
CONCERT**

同志社グリークラブ 第73回定期演奏会

12月14日〈水〉
京都会館第一ホール

同志社グリークラブ・クローバークラブ ジョイントコンサート

12月10日〈土〉
大阪毎日ホール

※ごあいさつ

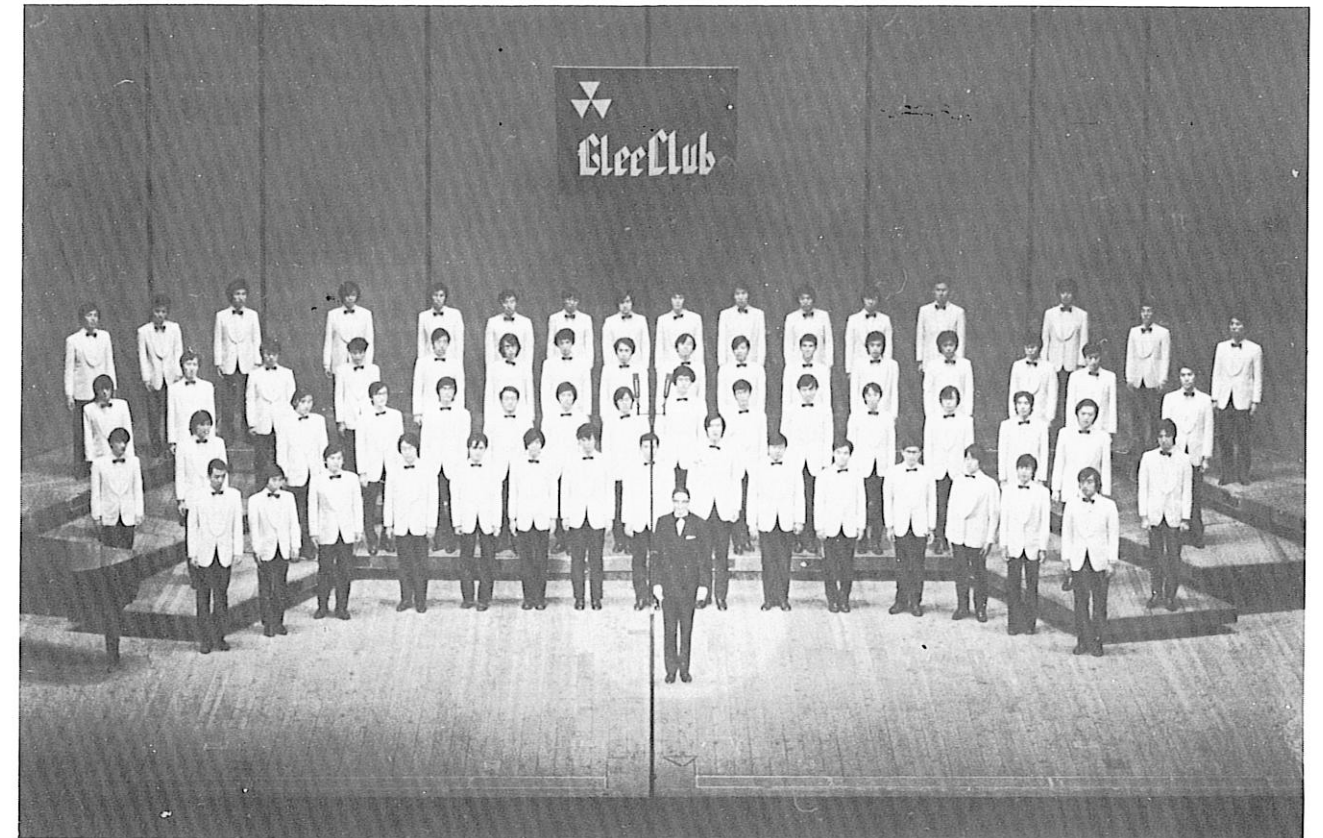
本日はお忙しいなかを私共同志社グリークラブ第73回定期演奏会にお越し下さいましてありがとうございます。本年度は、私達のOB団体であるクローバークラブとのジョイントコンサートを定期演奏会の一環として大阪で開催いたすことができ、部員一同喜びといたすところであります。

私共同志社グリークラブが現名誉顧問の片桐哲先生によって名付けられたのは今から73年前のことになります。その間には幾多の困難に遭遇し、辛く苦しい時代もありました。しかし今宵は80数名のメンバーがステージに立つことができます。一年間ごっすり詰まったスケジュールと、ほとんど毎日の練習で、ときには1人1人が崩れそうになることもありましたが、しかし我々は、80数名が1つとなって、音楽芸術の素晴らしさと73年間の歴史の重みをしっかりと感じ、努力してまいりました。

今宵御来場の皆様に私共の演奏から何らかの感銘を受け取っていただけたならば、私共にとってこれにまさる喜びはございません。

なお最後になりましたが、今宵の演奏会にあたり、多大なる御協力、御支援を賜りました諸先生、諸先輩、合唱連盟、ならびに関係各位の皆様方に厚く御礼申し上げますと共に、今後ともより一層の御指導御鞭撻の程賜りますようお願い申し上げます。

部員一同



DOSHISHA COLLEGE SONG

One purpose Doshisha, thy name
Doth signify onelofty aim.
To train thy sons in heart and hand
To live for God and native land.
Dear Alma Mater sons of thine
Shall be as branches to the vine;
Tho' thro' the world we wander far and wide.
Still in our hearts thy precepts shall abide.

Still broader than our land of birth
We've learned the oneness of our earth
Still higher than self-love we find
The love and service of mankind
Dear Alma Mater sons of thine
Would strive to live the life devine.
That we may with increasing years have stood
For God, For Doshisha and Brotherhood

MESSAGE

≪ごあいさつ

同志社大学長 松山義則

1977年も余日わずかとなりました今宵、同志社グリークラブの第73回定期演奏会および同志社グリークラブ・クローバークラブジョイントコンサートが開催されますことを、本当にうれしく思い、心からお祝い申し上げます。

グリークラブは、本年創立73周年を迎えたのでありますが、同志社の歴史が102年であることを考えますと、その長い歴史と伝統の重みをつくづく感じさせられるのであります。グリークラブの紹介は、いまさら私が申すまでもありませんが、男声合唱団として音楽芸術、合唱技術の向上への努力はもちろん、部員相互間のメンタルハーモニーおよびカレッジライフの向上にも不断の精進を重ねているのであります。従って同志社にある多数の音楽団体の中でも、学内外に示した功績と栄誉は抜きん出たものがあるのみならず、日本の音楽界、合唱界に果たした貢献度もまた計りしれないものがあると考えます。

グリークラブは、数年前米国ニューヨークおよびワシントンで開催された第4回世界大学合唱祭に日本代表として参加したり、最近では請われてテレビ出演もたびたびであるのは、皆様よくご承知のとおりであります。

また本日の演奏会は、今日の栄光ある伝統を築かれたグリークラブOBの方々で組織されたクローバークラブの演奏会でもあります。多忙なスケジュールを克服した練習して成果をご披露することでありましょう。

どうかご来会のみなさまにおかれましては、本学と本学グリークラブの一層の発展のため、ご高批ならびにご支援をくださいますようお願い申しあげる次第であります。

この催しを行うにあたりご助力くださいました関係各位に深謝いたしますとともに、本夕の演奏会が有意義に、また盛況裡に終始しますことを願ってごあいさついたします。

第73回定期演奏会によせて

同志社グリークラブ顧問 遠藤 彰

先日NHKテレビから、関西学院と同志社のそれぞれのグリークラブとOBのコーラスが放映された。それをみていて、大学合唱団がその大学の性格から決定的な影響を受けるものであることを改めて感じた。関学のことはともかく、同志社グリーの演奏の特色は、脈動感溢れるスタイルにあるようだ。これは厳しい練習と長年の訓練の賜物であるけれども、それらを支えるものは精神であって、1人1人が自由な個的存在でありつつ、しかもそれらの共同体としての盛り上りを可能とする姿勢から出るものなのだ。これは同志社大学の精神にほかならない。

今宵のステージで歌うグリーの諸君。この定演、どうぞ君たちの独自のスタイルを十二分に生かす演奏をお願いしたい。同志社らしい精神の横溢を期待したい。

全日本合唱連盟理事
京都府合唱連盟理事長 吉村信良

京都にはかずかずの「老舗」がある。そのそれぞれは、創業以来の商法をかたくなに守り、決して派手にはふるまわない。ところが足を一歩ふみいれてみると、一見保守そのものとさえ見える「お店」の内部には、すきさえあれば噴火しようとする巨大なエネルギーが、主人や従業員の前向きの姿勢のもとに精いっぱい貯えられているのがわかる。それ故に、「老舗」は永久に存在を続けていくのである。

70余年の歴史を作ってきた同志社グリークラブは、まさに由緒ある老舗の風格をもっている。学生は、毎年四分の一ずつ交替していくのだから、時代によっては不作のときもあるはずだが、落ちこみを見せるどころか、いつまでも前進を続けている姿はまことにすばらしい。卒業後も各地で活躍を続けている諸先輩たちと、今日歌う現団員諸君の胸に共通して響く「同志社グリークラブ」の名が、重荷ではなく「誇り」として常に存在するのである。そしていつも謙虚にひたむきに音楽を追求していこうとする偉大なるプロフェッショナル、福永陽一郎氏を忘れてはなるまい。だから今年も定期演奏会の日が待ち焦がれるのである。

≪再出発の喜び

同志社グリークラブOB会会長 松本寛二

第18回目の演奏会が大阪で開かれてからもう5年になる。その間「今年のクローバーの演奏会はいつですか」という問いをよく聞かされた。これまでの演奏会を何回も何回も聞いてくれた有難いファンの声だが、その都度私は返事にとまどっていた。ところがつい先日ある友人から同じ質問をうけたのだが、こんどは「12月10日にあるよく聞いてくれよ」と大威張りであっさりと答えることが出来たのである。オイルショックが直接の原因になったわけではもちろんないが、世の中の深刻な不況が練習出席にも大きく影響したことも事実だ。とにかく1972年の第18回を最後に5年間も休んでしまったことになる。ところが昨年新春、同志社グリークラブOB会が新発足してからその様相が一変した。その発足とほとんど同時に早、慶、関、同の4大学OBがはじめて東京で顔を合わせ演奏会を開いてはというハプニングが起ったからだ。これを契機に新しい若い指揮者の下で猛練習がはじまり、今年の7月3日には総勢80人という大メンバーで東京の舞台を飾ることが出来たし、演奏も最高の賛辞を得ることが出来た。またNHKテレビにも関学、同志社両グリー対抗戦として登場、どういうわけかこれが3回も放映された。おかげでずいぶん沢山の方々から電話や便りをもらった。「久しぶりでなつかしかったよ、楽しかったよ、感激したよ」などがほとんどだったが、久しぶりの顔見せを、そしてグリーの歌をみんなが喜こんでくれたものだろう。そして引続いて今日は同志社グリーの若さとOB達の競演となった。どちらがうまいか、よかったか？そんなことはどうでもいい、それよりもOBクローバーの再出発を喜んでほしい。明年はきっと今こそ第19回目の演奏会を大阪で実現しているだろうし、さらに先のことだが、明後年には第2回目の4大学OB演奏会の京都開催もすでに決まっている。その節にはどうかよろしく……本日のご来場本当に有難うございました。

PROGRAM

Doshisha
College
Song

作詩 W.M.Vories
作曲 Carl Wilhelm

12月10日
大阪毎日ホール

I *グリークラブ
男声合唱組曲
沙 羅

丹 沢 作詩 清 水 重 道
あずまやの 作曲 信 時 潔
北 秋 の 編曲 福永陽一郎
沙 羅 指揮 林 宏之
鴉 ピアノ 長島優子
行 々 子 伴奏
占 ふ と
ゆ め

II *クローバークラブ
男声合唱組曲
中勘助の詩から

絵 日 傘 作詩 中 勘 助
椿 作曲 多 田 武 彦
四 十 雀 指揮 富 岡 健
ほほじろの声
か も め
ふり売り
追 羽 根

III *グリークラブ
Cole Porter 名曲集より

NIGHT AND DAY 編曲 福永陽一郎
IN THE STILL OF THE NIGHT 指揮 林 宏之
BEGIN THE BEGUIN ピアノ 福永陽一郎
伴奏

V *グリークラブ
CHANTS D'AUTOMNE
秋 の 歌 詩 S. SICARD
SÉRÉNADE DHILVER
冬のセレナーデ 詩 H. CAZALIS
HYMNE AU PRINTEMPS
春の讃歌 詩 J. BONEROT

作曲 C. SAINT-SAËNS
指揮 福永陽一郎

IV *クローバークラブ
Messe in G-dur

Kyrie 作曲 F. SCHUBERT
Gloria 指揮 富岡 健
Credo ピアノ 長島優子
伴奏
Sanctus オルガン 劉 千穂
Benedictus 伴奏
Agnus Dei

INTERMISSION

PROGRAM

Doshisha
College
Song

作詩 W.M.Vories
作曲 Carl Wilhelm

12月14日
京都会館第一ホール

1. 男声合唱組曲
沙 羅

丹 沢
あずまやの
北 秋 の
沙 羅
鴉
行 々 子
占 ふ と
ゆ め

作詩 清 水 重 道
作曲 信 時 潔
編曲 福永陽一郎
指揮 林 宏之
ピアノ 長島優子
伴奏

2. CHANTS D'AUTOMNE

秋 の 歌 詩 S. SICARD
SÉRÉNADE DHILVER
冬のセレナーデ 詩 H. CAZALIS

HYMNE AU PRINTEMPS
春の讃歌 詩 J. BONEROT

作曲 C. SAINT-SAËNS
指揮 福永陽一郎

INTERMISSION

3. Cole Porter名曲集より

NIGHT AND DAY 編曲 福永陽一郎
IN THE STILL OF THE NIGHT 指揮 林 宏之
BEGIN THE BEGUIN ピアノ 福永陽一郎
伴奏

4. 男声合唱とピアノのための
風の中で歌う空っぽの子守唄

作詩 蔵原伸二郎
作曲 中 村 茂 隆

男声合唱とピアノのための
ゆうやけの歌

作詩 川 崎 洋
作曲 湯 山 昭
指揮 福永陽一郎
ピアノ 久邇之宜
伴奏

PHOTO 記録・舞台写真

(株)大阪フォト サービス カンパニー

大阪市西区靱本町 3-8-8(第3奥内ビル)
PHONE 06(443)7608・7609

曲目紹介

「中勘助の詩から」について

富岡 健

クローバーが中勘を？ 過去のクローバーを御存知の方は、少し面食っていらっしゃることでしょう。多田作品の中でも、この組曲は、合唱団としてかなり高度なテクニックを要求しています。単なる四声体のハーモニーの処理（昔のクローバーのおはこだったのですが）だけのセンスでは、どうしようもなく、パートの一つずつが、その個性を明瞭に発揮して、パートとして一本の筋の通った音色、表情を出さなくてはなりません。すなわち、従来のクローバーの最大のウィークポイントであった練習の絶対量を強いられた曲なのです。

譜面づらは決して難しいものではありません。（四十雀のテナーパートを除いて）しかし、なんでもない日常生活の寸景を、なんでもないように歌ってのけるには、歌い込むだけの練習量が必要となるのです。現役ならまだしも、社会的にも中枢として活躍している人達の合唱団が、この組曲を取り上げたのは、本当に挑戦でしかないのです。

一つ一つの曲の内容は、作曲者自身の記によると、次のとおり。

《絵日傘》

絵日傘を持って遊ぶ子供たちの情景を、早いテンポで歌う。途中の独唱は、襖ごしに呼びかける風情である。

《椿》

わらべ唄風な旋律を早いテンポで演奏する。近所の久兵衛さんの家の立派な椿を、なかば諧謔的にほめあげる。

《四十雀》

ひょっとしたら、詩人は「白い頬の一人の若い女が嫁いで来て、そこで一人の男とずーっと仲よく暮らして行く」ことを、四十雀に託してほのほのと歌いあげたのかもしれない。

《ほほじろの声》

ほほじろの声を聞いて、昔を思い、今も昔も変わらぬ孤独感をしみじみと歌い上げる。

《かもめ》

ゆりかもめのありさまを、わらべ唄風に可愛らしく歌う。

《ふり売り》

人や動物が近づいてまた遠ざかって行く有様は、古今の作曲家たちが好んで用いる手法の一つである。私も、この第六曲目で、魚売りの呼び声を用いて、この手法を使ってみた。

《追羽根》

中勘助の兄は長年病苦になやまされ、兄嫁もその看護疲れのため床に俯しがちであった。その兄嫁に対するいたわりの気持をこめて書かれたこの詩は、追羽根の持つすがすがしい季節感とともに、中勘助の詩風を代表するほどのものであった。

「シューベルトのミサ曲解説」

西垣喜光

フランツ・シューベルトが作曲した正教会ミサ曲は、1814年のヘ長調ミサ曲から、1825年の変ホ長調ミサ曲迄、六曲を数えます。後半の二つ（変イ・変ホ）が、晩年の壮大な様式美を持つのに対し、このト長調ミサ曲（1815、D167）は、ほとんどの楽曲が簡素な美しさにつらぬかれています。天才の18才の作品です。

「キリエ」では、二つの穏やかな「キリエ・エレイソン」の間に、ソプラノ独唱の「ソリスト」がより軽やかな色どりを見せます

「グロリア」冒頭の七の和音は、天才の若さの気負いとも申せましょう。「フレド」共々対位法的展開はまったく見られません。マエストーソで詠一された「サンクトゥス」と「オザンナ」の小フーガとの対比の巧みさ。「ベネディクトゥス」はソプラノ・テノール・バリトンの明るい三重唱、典礼通りの「オザンナ」の後、終曲の「アニュス・デイ」は、この時代の天才の創作の中でも珠玉の一つです。

どの部分をとっても、決して、大げさだとか、仰々しさとは全く無縁な「小ミサ曲」なのです。聖シュテファン寺院の高い尖塔よりも、初演のリヒテンターラー教会（ウィーン郊外）を例に引くまでもなく、小じんまりした、田舎の教会に、よりふさわしいミサ曲と申せましょう。

尚、・「フレド」の中、オリジナルによれば「我は聖なる公同の教念を信ず」という節分には、歌詞がつけられていませんが、今回のウィリ・トラップ版では、ほとんど完全に正教会典礼に則しています。シューベルティアンにとっては御不満かも知れませんが、同志社グリーンOBという讃美歌出身の団体には、かえってふさわしいかも知れませんか。

Kyrie

主よあわれみたまえ キリストよ、あわれみたまえ 主よ、あわれみたまえ
3つに分けて3回ずつ唱えられるこの祈りは、三位一体なる神、すなわち父、子、御霊にあわれみを請うものである。

Gloria

三位一体の神を讃美し、キリスト降誕の時、天使の歌う詞 “いと高きところでは神に栄光あるように、地の上では御心にかなう人々に平和があるように、” と先唱される。

Sanctus

“聖なるかな、聖なるかな、万軍の主、主の栄光は天地に満てり” と主を讃美している。（イザヤ書6章3節）

Benedictus

“主の名によりて来り給えるもの祝せられ給え” とキリストを歓迎する讃美である。

Agnus Dei

罪のあがないを願って神にささげられた子羊にたとえられるイエス＝キリストはその言葉通り十字架にはりつけられ、自らの血で世の罪をのぞきたもうた。イエス＝キリストの御身体と御血とをうける聖体拝領の準備としての祈りである。

曲目紹介

Cole Porter 名曲集より

福永陽一郎

アメリカのミュージカル界の一代の雄の一人だったコール・ポーターの名曲は、すっかりスタンダードな位置に安住してしまっていて、流行を追うに急な極東の島国の若者たちからは忘れられた存在でしかないようである。

1950年代にさかんに制作されたアメリカ映画のジャンルに、ポピュラー界の大御所的作曲家たちの伝記映画があり、ジョージ・ガーシュインとガジェローム・カーンとカジグムンド・ロンバーク、アーヴィング・バーリンなどを扱った名画があった中に、合唱のオールド・ファンに忘れ難い印象を残した名場面のあったものが二本あった。ひとつは、グレン・ミラーの伝記映画で、彼が、作品のアイデアに悩み、母校のハーヴァード大学のキャンパスを散歩していると、どこからかグリーンクラブが、“Little brown jug”をうたっているのが聞こえてくる。それはいい感じの男声合唱だった。このヒントから、グレン・ミラーの名作のひとつ「茶色の小瓶」が生れるのである。

もうひとつは、コール・ポーターの伝記映画のラスト近く、功成り名を遂げた彼が、やはり母校のエール大学で、文学博士かなんかの学位を受けることになり、式典にゆくと、思いもかけず、有名なエール大学のグリーンクラブが“Night and Day”をうたって歓迎するのである。これも、実に美しいサウンドの場面だった。当時、日本でも、寄るとさわると、男声合唱団がNight and Dayをうたいたがったものである。

思い出は遠い日々となったが、スタンダードな名曲のメロディは不朽で、いつ聞いても美しく、古びたりしない。男声合唱団の愛唱歌曲になってもよいのではないだろうか。

SAINT-SAËNSの男声合唱曲

福永陽一郎

十九世紀フランスの作曲家、カミーユ・サン・サーンスは、多作家で、交響曲、管弦楽曲、協奏曲、室内楽曲、独奏曲、オペラ、歌曲、宗教曲などのすべてにわたって作品を残し、どれもが性格として大衆性にあふれていたため、人々に親しまれ愛され、人口に膾炙している点では、フランスのどの近代作曲家にも勝る存在である。

無伴奏男声合唱のための作品は、かなりの数が残されており、いずれも、当時、パリを中心に隆盛した『オルフェオン運動』（ドイツのリーダーターフェルフェライン、イギリスのグリーンクラブと並ぶ男声合唱運動）のために書かれたものと思われる。

今回とり上げられた三曲は、「秋・冬・春」とシーズンを追っているが、意識された組曲ではなく、内容的にも音楽的にも互に共通性はない。そして、サン・サーンスの音楽上の思想にもよるところだろうが、各所に気の利いたフレーズが点在するにもかかわらず全体は穏健なアカデミズムを逸脱することが無い作曲様式と同様、歌詞の内容も、ごく当り前の季節随筆を越えることはない。サン・サーンスの目標は、人々を快適な気分誘うことであり、それ以上ではなかったようである。

しかし、現存するヨーロッパのオリジナル世俗男声合唱曲として、サン・サーンスの曲は貴重なレパートリーである。「冬のセレナーデ」だけは早くから日本でも知れわたっていたが、こうした曲目を楽しむ習慣がもつと増えてもよいのではないだろうか。

SAINT-SAËNS 訳詞

秋の歌

おい茂ったカシの木から
そして陰鬱な木の株から
金色の葉が北風が吹くと、
バラの花ピラをむしり
大空を灰色におおって
ゆつくりと落ちてくる

今や厳しい季節

そして皆が心の準備をする
ぶどう栽培者がいっばいになった樽の上で
欲深いめつきをしながら
ほれほれとした目つきで寝づの番をする

みつばちは寒そうに
大急ぎで羽を動かして
ブンブン音をたてている巢に
またたどりつく
一方 ひばりは
朝の身震いのうちにその羽をみがく
そして強清な空気が
耳をつんざくような調子で
太陽を歌であざ笑う

美しい女の子よ
地上のみせかけの悲しみに
なぜ悲しむのか
愛の神の力の一つの神秘である。
何者も愛の神に
抵抗することはできないだろう

お前が不誠実だと思っている人も
つばめが戻ってくると
嫉妬深い火の熱情があわだつのを
感ずるだろう
女の子よ
彼がお前を愛する様に
彼をいつくしめ
そして この上ない抱擁の中で
彼に天という名を与えよ

そして君よ
血で高貴な義務を果たして
明日には軍旗の下で眠ることができる
勇敢なフランスの兵士よ

われわれの希望である若い新兵が
バイヤールやテュゲクランやテュレンヌが
生まれるのを目にした
勝ち誇った祖国に対する尊敬の念を
心の奥底にいきいきと持ちつづける

明るく清らかな光を持っているお前の
天才に対する憎悪によって
めくらにされた嫉妬深い民衆どもは
尊い負傷者を殺そうという
途方もない夢をはぐくんでいる

冬のセレナード

私達は あなたをたたえるセレナードを
歌いにやって来ました マダム
あなたの心にかなう歌をうたう

という喜びを私達に
持たせていただけませんか
すべての戸は閉ざされています
しかしめて
あなたのバラ色の唇に浮かぶ
微笑を見ることを
膝について願っている
私達だけにでも
あなたの心を
開いて貰えないでしょうか

外では風が吹き 冷たい
でも あなたのバラ色の顔さえあれば
そんなことはどうでもよい
私達はあなたの門の所で
私達を暖めてくれる
あの太陽のような光を
あなたに投げかける
あなたのもとは
一年中 春の暖かい光がほほえみ
そしてマダム あなたの家では
毎日 ナイチンゲールがさえずり歌う

今 黒のマスクをつけ
あなたに夕方のあいさつに来た者が
あなたの窓の下で歌っている者が
誰かという事を知っていただけませんか
どうか
我々の事に気づいて下さい

我々の目はピロードの板面の下に
隠されている
あなたに言い寄るやきもちやきどもを
あざ笑ってやるためです
でも 我々は
誇りがあり 礼儀正しく
同時に二つのもの
つまり あなたと詩とに
愛を抱いている紳士なのです。

春の讃歌

接吻とバラの黄金の季節よ
不思議な勝ち誇った春よ
君が止まる心の王よ
接吻とバラの黄金の季節よ
春よ われらに幸福を与えよ

君の息吹が厳しい冬を追つばらった時
自然は歌いながら目覚める
そして暁はもつとまつ赤に輝いた
万物は大地の上で
そして大気の中でふえる ふるえ

ざわめきが牧場をわたっていった
古い地面が緑の草で装おった
さんざしが綻んだ花を持つ
そして ここに赤く染った芽がある

万物は微笑し希望に蘇る
活気のある鳥の巣が
木の枝の中でひなを孵す
白い花をいっばいつけた木が
鳥たちを日暮れまで歌わせる

平野も森も産みの活動をさせる太陽の
輝きの下で 陽気さで一杯になる

大地は世界のために
夏の間近い収獲物がふえるのを感じる

われわれに栄光の服を着せる
光と愛の季節よ
勝利の使者よ
春の再来を歌で祝おう

地上のあらゆる場所で宣言しよう

万物の復活を

そして陽気な朝の目覚め
バラの香りの中で

草原に黄金と火を蒔く事の出来る君よ
さらに貪しい人々に与えよ
お前の豊かな魔術で
めくるめくような宝を

茂みの枝に戦慄と調和の歌を置く君
お前の歌に合わせて
われわれの生に韻律を与えよ

お前のかぐわしい吐息の下で
あらゆる苦悩はやわらく
希望は魔法をかけられた心の底で
快い妖術のように蘇った

空がこの地上に寿ぎにやってくる
慈悲深く 陽気な若い神よ
われわれの心の中に
われわれの眼の中に
ひかり輝きに来い

春よ快い神秘よ
われわれの心の中に
われわれの目の中に

空が地上に寿ぎにやってくる春
快い神秘よ
慈悲深く 陽気な若い神よ
われわれの心の中に
われわれの目の中に
ひかり輝きに来い
仕事だ！仕事だ！
それが春の掟りだ それが人生の掟でだ

われわれの満ち足りた魅が
春の力と信頼の
成長するのを目にするのは
仕事によってである

仕事だ！仕事だ！
われわれの勇気とわれわれの精気を
雄々しく結びつけるために
美しい夢の飛翔の中で
新しく創造するために
春から春へ 未来よ

曲目紹介

男声合唱組曲「沙羅」

歌曲集「沙羅」は信時潔の代表作であるばかりではなく、今日我が国の歌曲の中の古典として広く演奏されているものである。この曲の今日的意義をとらえて演奏することはやさしくない。一曲一曲をその意図において描き分けるには作曲された時点での背景に立つことが必要であるが、同時に現時点での意味をはっきりととらえなければ音楽芸術は成り立たない。素材に対する新鮮さと同時にそのスタイルの一種独特の取っつきにくさ、意味があると信じて歌っても、それがつかまえられるもどかしさ。我々は今回の演奏で是非この曲の素材をスタイルと音の新鮮なカかわり合い、その独立性を見つめてみたい。

沙　　羅

清水重道詩

丹沢
枯れ笹に陽が流れる、背に汗
うらうらと雲さへも、冬なのに
尾根長く檜洞こえて響く沢おと
どの山も　崩土の色だけは凍てている
塔のむかふ町並光らせて秦野
見やる天城も明るい草附き
雪の来ぬ冬山のくぼに煙草吸うて見る
ひとり

あづまやの
あづまやの
まやのあまりに
立ちぬれて
殿の戸あけと
云ひし人もが

錠もとざしもなしと
云ひし人もが

五月雨に
わが訪ひくれど
門さして
君はいまさず
憎くや
この君

北秋の
北秋の
峡のこづしき道のくま
わが見し花に
名づけてよ　君

いなむしろ
君によそへて
呼ばましものを

みつみつし
白く小さき
北秋の花

沙羅
林、音なく
日の暮は
ゆめのごとし
眞玉夕つゆ
おもくして
沙羅の花ちる

さうら
沙羅の花
ほの黄色なる

鴉
小田の薄ら氷
ふみ破り
踏み渉る

大おそどり、からす
昔ふり
肩をはり
踏つめたげに

ついばむ
ひようひようとして

大おそどり　からす

行々子
ふるさとの
河原の平に
よしきりは鳴く
日ねもす鳴く

昔わが遊びし時と
変ることなし

よしきりは鳴く
日ねもす鳴く

耳いたく鳴く

占ふと
占ふと　云ふにあらねど
梳るわが黒髪の
常になうときわけがたく
なにがなし
心みだるゝ

ためらふと云ふにあらねど
すき櫛をくしげに捨てゝ
わけもなう嘆息すれば
あゝ　まこと
わが恋のさだめにも似て
ひたすらに
心わびしも

ゆめ
あがつきに
見る夢の
さめはてぬ
かなしさや

野のはてに
池ありて
人をらぬ
静けさや

白々と
たゞひろく
ひろこれる
さびしさや

夢ごころ
うつゝ心
たゞひろき
池ばかりなる

男声合唱とピアノのための「ゆうやけの歌」

福永陽一郎

「ゆうやけの歌」は、1976年、広島の崇徳高校グリークラブの委嘱によって作曲された。川崎洋の詩の中で、秀作としてかなり広く知られているものにつけられた音楽は、湯山昭の作品としてもきわめて高度な芸術的成功を達成したもので、今後、日本の男声合唱曲中、指折りの名作という地位を確保するものと信じられる。1976年9月14日、崇徳高校の定期演奏会で、指揮・天野守信、ピアノ・新宅雅和によって初演され、同じ年の11月22日、全日本合唱コンクールで、同じ顔振れが熱演をくりひろげ、高校部門の金賞獲得と共に、人々に非常に強い印象を残した。

川崎洋の詩は、解説解説の不可能な、あるいは不必要な「詩」そのものであって、同時にきわめて音楽的なリズムの弾力とダイナミックスの振幅を持っており、この詩自体、すでに音楽であるとも言えるほどであるが、湯山昭の作曲は、その詩の音楽性を相殺することなく、単なるフシづけとも違って、別の音楽語法で“夕焼け”の焼けつく真赤な色彩のイメージを定着することに成功しており、ここにわれわれは、詩と音楽の見事な相乗作用によって、一幅の絵画を見る視覚的感動を味わうのである。いかなる人にとっても“美の象徴”であり得る真赤に染った夕焼け空を見たときの讃嘆。それを青春の躍動感としてとらえ得たこの男声合唱曲は、今後ながく日本の青年たちを魅して止まないだろう。

演奏時間10分足らず。コンサートのひとステージとして、時間的にやや短いので、今回は、蔵原伸二郎作詩、中村茂隆作曲の男声合唱とピアノのための「風の中で歌う空つぼの子守唄」を演奏することにした。

ゆうやけの歌

詩……………川崎　洋

ゆうやけこやけ　じゅびたあ　焚け　焚け　おんがくを　魚のように　はだかの雲は否いる
焚け　森を　海のように　じらじら　じぶしい　とちめんぼお　
盗んだ娘こわきにかかえて　とちめんぼお　向うで鉱脈きらり　畝びかり
あかはら達は一せいに沼の岸に並んで讃嘆　北から山びこ　東からわつしよい
おーとばい　ななめにきれいに火をふいて　それえ　わつしよい　じゃかじゃん
やけぶどう　こげへび　焼けとかけ　くろんほの娘のなには　なんとやら
とり登ましてみずうみに落ちてるバカな空　森の中の赤い屋根　洋館の窓　シヨパン
さても　レエスは揺れる　みつくみのおとめえ　さあどうするどうする
このゆうやけはオランダにもあるか
いちご　いちご　おお　いちごが喰いたいよ　じゅびたあ　突如想い出す初恋のこと　じゃかじゃん
じゅびたあ突如想い出すよじゃかじゃん　焚け　森を　海のように　じらじら
くろんぼーん　は　やさしく焚いて　ほるん　も　そえて　やさしく焚いて
すぐりの茎でひつかいた　あなたのふともも　なでさせて
まっしろのつやつやの皮ふには継目がない　ゆうやけこやけ　うしろの正面だれ
コルシカ生まれのさつくす吹きは　なぜ　ゆうやけみながら狂ったか　じゅびたあ　とおくを見よう
ずうつとずうつと　とおくを見よう　ほら　あんなにとおくがはつきり見える
なほれおん　は　死ぬまざわ　じゃぼね　の　若い詩人に逢いたいよ　じるぶじれ
といったとかいわぬとか　じゃかじゃん　よいよいまあよいではないか
なんぞと云う　くそつたれの　としよりは　早く死ね　嫌いだ
じゅびたあ　お前へ　鳥がとんでゆく　とんでいく　人さらいもお化けも頼も
みんな　お前へ　はないちもんめ　じゅびたあ　お前の云いつけ　なんでも　きこう　なんでも
ゆうやけに鎌を研げ　明朝は晴天　死ぬような　ああ　ろしやじん　は　いった　疲れたら休め　と
しんりだ　疲れたら休め　ただれた空は巨きくお前にかがみこむ　ゆうやけ　つるとかめが
つうべった　じゅびたあ　じゅびたあ　あかんべえ

註1) Jupiter 古代ローマ神話の、天を支配する最高至上の神。
註2) 目をばちくりして、どうしていいかわからず、茫然としていること。
註3) イモリの一種。
註4) 乙女。
註5) グーズベリーによく似ている。赤く熟した実は甘ずっぱい。
註6) S'il vous plait. フランス語で“どうぞ、”の意味。

プロフィール



■福永陽一郎《技術顧問》

1926年神戸に生まれる。東京音楽学校（現・芸大）本科ピアノ科出身。井口基成、豊増昇氏に師事。在学中より東宝交響楽団（現・東京交響楽団）で近衛秀麿氏の助手をつとめる。1951年藤原歌劇団に入団し、ピアニスト、副指揮者、合唱指揮者として経験を積む。M・グリムハット氏に師事。1956年～65年、藤原歌劇団常任指揮者として活躍し、同団の第三次渡米公演に同行。アメリカ、カナダの主要46都市での公演を指揮した。1959年、61年、63年、71年にNHKのイタリア・オペラ来日公演に日本側代表指揮者として参加。副指揮者、合唱指揮者をつとめる。オペラ指揮者として日本屈指のベテランである。

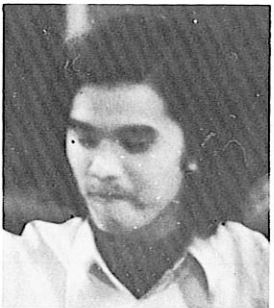
合唱音楽に関しても経験が深く、合唱界の第一人者の一人である。プロ・アマを通じての指揮、講師・審査員としての活動、編曲、レコード録音など、数えきれないほど多方面にわたって活躍。評論活動も注目されている。

※京都の秋に

昨日は、同志社グリーンの練習のために来たにしては珍しく朝早く到着したので、久しぶりに高雄・神護寺へ行って来ました。異例の温暖の日が続いたせいか、十一月半ばで、まだ、紅葉は十分な盛りと言えない景色でしたが、それでも時々、見事な紅に出会いました。いつそや、前に見た全山紅葉、錦を織り成すといった具合ではなかったのですが、やはり名所だけあって、それなりの満足を得て帰ってきました。

今年の同志社グリーンは、人数も増大し、舞台ではさぞや安定感が漲ることと、そう願いたいところですが、人が多くなればそれだけ悩みも増え、これも『全山紅葉、見事なものだ』とは言い兼ねる状況です。プログラムの紙上で解説するのはみつともないと思いますが、この秋は、秋には多忙になるにきまっている私にとっても異常なほど極度な過密スケジュールで、京都に来た日程も、例年にない窮屈さで、どう考えてみても、十分に練習して演奏会に備えたと言うわけにはゆかないのが真相です。練習室でこの秋は、焦った私は怒ってばかりいました。歯車の噛合わない練習に苛立ちながら、私は、本格的に紅葉しないまゝ冬枯れになるかも知れない西山パークウェイが頭の中を点滅するのを覚えました。

こうした時、私もグリーンメンたちも、事態を真面目に考えなくてはいけないと思います。このまゝでは、長い伝統も無意味になり、聴き手の満足など遠い話です。新興の活気に満ちた大学合唱団を横目に見ながら、二度とこのような気分を味わう“京都の秋”は御免蒙りたいものと念願しています。残された日々、何とかして、この一文が違和感を与えるようなコンサートにならないかと、真剣に願っています。なんらかの意味で、さすがだ、と言ってもらいたいものです。（11月16日記）



■富岡 健《クローバークラブ指揮者》

昭和50年3月同志社大学法学部卒業。同年4月グリーンクラブアメリカ演奏旅行に学生指揮者として参加後、Wayne State Univ. の音楽学部指揮科に入学。その間 Student Assistantとして同校の合唱団の指導や、デトロイト・シンフォニー傘下のデトロイト・ユース・シンフォニーのAssistant Conductorとして、研鑽をつむ。52年9月、帰国。合唱指揮者として将来を嘱望されている。

クローバーとは、第1回東西四大学OB演奏会から指導にあたっている。

※クローバーと私

旧体制のクローバークラブとの最初の出会いは、まだ私が高校2年の純心無垢の紅顔の美少年(?)だったころ、Sea Shantyの伴奏者として合宿にかりだされた時です。そこで音楽評論家であり関西合唱界の偉い人だと聞いた日下部先輩に恐る恐るお会いした時、目のさめるような真赤な半ズボンをはいておられたのが、なぜか強烈な印象として残っています。練習が始まる直前に初めて団員に配ばられた楽譜を譜読みの工程もなく、いきなり歌詞をつけてハモリ出し、それもp, fをつけられたこともこの高校生にとってショッキングな事でした。私は初めて大人の音楽や、練習のコツといったものがわかってきた様な気がして、いままで自分がいた小さな世界が、このオツチャン合唱団を通じて、急に広がったことを昨日のように覚えています。

グリーの4年間にあきたらず、アメリカで2年余り音楽科の学生としてすごしてきた私が帰国早々、新生クローバーの指揮者に迎えられたということに、何か運命じみたものを感じます。正式なOB会が結成され、その外郭団体として再組織された同志社グリーンOB・クローバークラブは新しいゆえにまだ不安定な合唱団です。そんなときに、微力ながらお手伝いできることを、たいへんうれしく思っています。



■大久保昭男《ヴォイス・トレーナー》

昭和28年東京芸術大学音楽学部声楽科を卒業。矢田部勤吉氏に師事。近衛秀麿指揮、青山杉作演出によるオペラ「カルメン」のモラレス役でデビュー。山田耕筰作曲、本人指揮のオペラ「黒船」ドヴォルザークのオペラ「ルサルカ」等にも出演。昭和34年にドイツ・リート、日本歌曲によって第1回リサイタルを開く。現在、演奏に、大学合唱の発声指導に全国的に活躍されている。

現在 東京芸術大学講師

※ひとこと……

第七十三回定期演奏会を迎えられ、心よりお祝いを申し上げます。

今年も素晴らしい演奏であります様に祈っています。

私は、ふと気がついて見ると、今、現在数多くの合唱団と共に声の勉強をしています、その合唱団の数をかぞえたこともありませし、かぞえる気も全く起りません。というのは、いくら数多くの合唱団とのお付き合いも、その「勉強の時」はその合唱団だけの純粋な時であるからなのでしょう。私がはっきりと云えることは、私はいつも、ただ一つのその合唱団と共に勉強していることです。

あらゆる意味でよごれの多いこの日本で、今、一つの純粋な時を持つことの出来るのは私達音楽をする仲間達であり、幸せなことです。音楽をする人も、聞く人も一つになって美しい世界にひたる時は本当にすべてを忘れさせてくれる素晴らしい時といえるでしょう。この大きな力を持つ芸術をみんなで大切にしていかなければなりません。

今年の四月に入って来た一年生も今では立派にその音楽の積み重ねの仕事の流れにのり、この定期の大きな演奏会には自信をもって歌うことが出来ることと思います。四月の頃の音楽に対する気持ちも大きく成長して、もう本物に変わって来ていることゝ私は信じます。

グリーンメン一人残らず一つのかたまりとなって伝統ある同志社グリーンクラブの今夜の演奏を全心身で歌いあげて下さる様願ってやみません。



■林 宏之《第46代学生指揮者》

1955年大阪に生まれる。幼少時代よりピアノ、ギターと音楽に囲まれて音感を養い、また、大の泣き虫で、その時に発声法を習得。小学校時代から合唱の世界に親しむ。同志社香里高校オルフォイスグリーンクラブ第15代学生指揮者を経て、1973年同志社大学経済学部に入學。昨年副指揮者として経験を積み、この春第46代学生指揮者に就任し、「雪明りの路」を指揮して合唱界にデビュー。

彼の指揮は、その外見から想像できる程派手ではないが、時として見せるあの素晴らしい顔の表情で、部員を一人残らず曲の中へ引き込んでしまうのである。

プロフィール



■久邇之宜《ピアノ》

国立音楽大学ピアノ科卒。クロイツァー豊子、近藤孝子氏に師事。小林道夫氏に伴奏法を師事。現在二期会、東京室内歌劇場、NHK他各方面で伴奏者として活躍されている。

≪ひとこと……

今年は男声合唱団の伴奏をさせて頂く仕事が多いのですが、その中でも特に私が楽しみにしているのが、今宵の同志社グリーンメンと共に演奏する「夕やけの歌」です。

初夏の東西四連、或いはそれをぬって強行されたレコーディングなど、彼らとこの曲にまつわる思い出は、私にとって、心の底に深くしまっておきたい1ページとなっています。その時、彼らが示してくれた、演奏に対する集中力、また最後の一かけらまでも、音楽をするという事に捧げた激しい情熱は、驚異であり、深く頭が下がる思いでした。そのレコードも発売された今、彼らの力強いハーモニーと共に、川崎洋氏の詩のもつたたかなたくましさ、また湯山昭氏のリズム感といったものが、今宵この会場で生で再現できれば、本当に幸せです。



■長島優子《ピアノ》

3才よりピアノを吉田輝子氏に師事。12才より作曲法、和声学を藤井園子氏に師事。同志社女子中・高等学校を経て1971年同志社女子大学学芸学部音楽学科（ピアノ専攻）に入学し、福本俊之氏に師事。1975年同大学を卒業。同年6月、大津管弦楽団とラフマニノフピアノ協奏曲第二番を協演し、ピアニストとしてデビュー。現在、研鑽を積まれる一方、京都市内のいくつかの合唱団の伴奏者として活躍されている。

≪ひとこと……

同志社グリーンクラブとの出会い……私にとっては何となく運命づけられていたのかもしれません。父がグリーンメンとして歌っていた数10年前、母が伴奏などしていなければ、私もこの世に存在していたかどうか……。でもそれから20数年経った今、こうしてグリーンクラブのステージに伴奏者としてのつているのですから。私にとっては大きなお兄さんばかりだったグリーンメンも、今ではカワイイ弟達ばかりになり、多少複雑な気持ちがないでもないのですが、昨年からのグリーンメンと一緒に音楽を作っていくうちに、すっかり男声合唱の魅力にとり憑かれてしまいました。

今宵、こうして又、一緒に演奏できる事をとても嬉しく思っています。

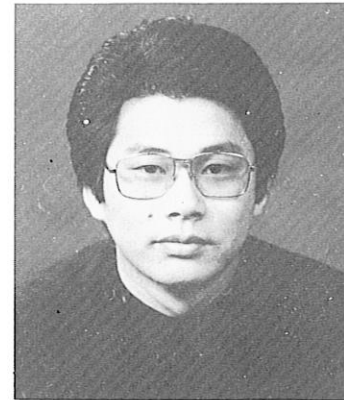


■ソプラノ独唱 岡田 春美

神戸女学院大学卒後、ハンブルグ国立音楽大学に留学、エルナベルガー・ロルフアルベスに師事、関西歌劇団のオペラに主演、数々のリサイタルやオーケストラとの共演も多い。

第1回「マダムバタフライ」コンクールに日本代表（1967年）、大阪文化祭で金賞（1970年）、関西音楽クリティッククラブ賞などを受賞。

また1975年にはハンブルグで、翌76年にはハンブルグとシュツセルドルフで独唱会を開いたほか西独各地のテレビに出演した。現在神戸女学院大学音楽学部教授。



■テナー独唱 平松 実

昭和46年、同志社大学工学部卒業。在学中は同志社グリーンクラブの名ソリストとして活躍。一昨年、京都府立芸術会館に於て初リサイタルを催す。

現在、演奏活動に、又一般・大学合唱団の発声指導に広く活躍。合唱団京都工コ―コンサートマスター。松村富也、大久保昭男ら各氏に師事。



■バリトン独唱 野村 忠

昭和31年、同志社大学経済学部卒業。現役時代同志社グリーンクラブ第27代学生指揮者として活躍。声楽を加藤てい、中川牧三両氏に師事し研鑽を積む。

現在、毎日放送に勤務。京都支局長。



■オルガン伴奏 劉 千穂

神戸女学院音楽部オルガン科卒。オルガンを吉田実教授に師事。

現在、神戸女学院のオルガン要員をつとめる一方、関西学院教会、大阪教会のオルガニストとしても活躍。また今年9月京都市交響楽団とマタイ受難曲を協演し好評を博した。

CLOVER CLUB MEMBERS



Top Tenor

西邨辰三郎 (S7) 荒井 直 (S43)
 福永 嘉彦 (S26) 東 英達 (S45)
 中路 明 (S31) 金沢 良二 (S45)
 平野 稔 (S31) 萩原 潤三 (S49)
 福島 義二 (S33) 大畠 功 (S50)
 新矢 起夫 (S34) 松村 俊明 (S50)
 長谷川邦男 (S35) 山口 正 (S51)
 磯谷 富三 (S36) 山口 篤 (S51)
 河村 時孝 (S37) 小林 茂 (S52)
 森本 久光 (S38)
 山田 至孝 (S40)
 北村 徹男 (S41)
 小室 泰司 (S41)
 沢井 浩一 (S42)

Second Tenor

松本 淳 (S5) 北山 良 (S41)
 酒井美智男 (S6) 小亀 豊 (S41)
 松本 寛二 (S15) 秋田 洋二 (S41)
 織田 幹雄 (S25) 魚谷 庄司 (S43)
 山中和三郎 (S25) 平松 実 (S46)
 斉藤 勲 (S28) 富岡 健 (S49)
 菅野 弘 (S31) 金子 悦文 (S49)
 村上 恵一 (S33) 瑞慶村啓一 (S50)
 塩路 良一 (S35) 大崎 保則 (S50)
 田村 量基 (S36) 村上 利行 (S51)
 田村 康浩 (S38) 稲垣 昌裕 (S52)
 岩本 六馬 (S39) 柏岡 哲 (S52)
 畑 恵郎 (S40) 八束 基義 (S52)
 土生 邦彦 (S40)

※歌と父と私

平野 稔 (昭和31年卒)

皆様ようこそお運び下さいました。

今宵、ここに同志社グリーンクラブ・クローバークラブ・ジョイントコンサートが開催出来ましたことは、皆様方のあたゝかいご支援と、現役、OB会の皆様方のご協力によるものと深く感謝申し上げます。

私が歌を聞き又唱うことが好きになったのは、どうやら父の影響大なるものがあるらしい。父は謡をやっていたが、子供の頃、瑞座して朗々と詠ずる謡曲の調子と声に、すっかりほれながら父に対する尊敬の念を一段と強くしたものである。又、夏などは田舎の庭前のパンコにねころび満天の星を眺めながら、きれいな高い声で「天然の美」や「荒城の月」等を唱ってくれた父でもあった。私は学生時代も今もテノールで唱っているが、これもやはり父ゆずりらしい。

私は高校、大学と学生時代はクラブに籍をおいてコーラスというより雰囲気——を楽しんで来たが、今なおなつかしく思い出されるのは、その頃の事であり又友人達でもある。卒業後大阪の池に奉職して二十余年、クローバークラブの一員として、今なお、このステージで唱っている自分を発見する時、「三ツ子の魂百まで」の例どおり、今宵このステージでカー杯唱っている諸先輩同様、私も又年老いてなお唱いつづけて行くことであろう。

今宵、この演奏会において下さった皆様方と亡き父の為、カー杯私は唱いたい。どうか皆様、今後共、同志社グリーンクラブと、そのOBクローバークラブに温かいご声援の程お願い申し上げます。そして来年も又再来年もこの様なステージが持てますように！

Bariton

森 義文 (S22) 祖父江重剛 (S37)
 富永 光雄 (S26) 寛 正彦 (S40)
 福島 茂二 (S28) 牧田 勝久 (S40)
 寺本 和市 (S29) 竹上 一郎 (S40)
 野村 忠 (S31) 滝沢 裕人 (S41)
 渋谷 昭彦 (S31) 吉田 晋 (S41)
 野岡 明 (S31) 藤田 昌男 (S41)
 原 忠和 (S31) 西村 肇 (S42)
 橘 守 (S31) 沢田 信一 (S46)
 宮副 隆好 (S33) 竹本三千雄 (S47)
 米田 治夫 (S34) 池田 周一 (S50)
 西垣 喜光 (S35) 高谷 博次 (S52)
 森本 潔 (S36) 山下 裕司 (S52)
 下津 啓誠 (S36)

Bass

藤井 清 (S12) 楠本 英雄 (S40)
 前窪 一雄 (S18) 西村 義之 (S41)
 長島 俊司 (S24) 大原 康弘 (S41)
 岡本 俊夫 (S25) 木村 忠文 (S41)
 西村 譲治 (S28) 木下 利彦 (S41)
 大河内護之 (S28) 栗山 昭男 (S42)
 戸所 義雄 (S28) 木ノ山 登 (S42)
 黒坂 洋平 (S29) 中根 敏雄 (S43)
 小田 泰弘 (S31) 広野 寛 (S43)
 渡辺謙之助 (S31) 大西 秀孝 (S46)
 寒河江 正 (S32) 中川 嘉一 (S49)
 森田 秀夫 (S34) 中村 徹夫 (S49)
 脇地 駿 (S34) 山内 規生 (S51)
 楠 貴至 (S35)

○印は東京クローバークラブのメンバーです。
 ()内は卒業年度です。

祝 第73回同志社グリーンクラブ定期演奏会

大小コンパの予約承ります

JAZZ & SOUL

Brilliant
 ブリリアン
 PUB-COFFEE

本店ブリリアン(寺内ビルB1)もよろしく
 セブンエイト四条河原町住友ビル(阪急)7階
 TEL 255-3586

80打席300^円練習場

アイアンコース9ホール

サウナバス無料開放

MGC 名神ゴルフセンター

山科・国道大塚交差点南東入ル TEL 571-2100

GLEE CLUB MEMBERS

名誉顧問	片桐 哲	幹事長	中山 篤	資料0B担当	中野 剛
顧問	遠藤 彰	内政	下山 正之	文連常任	山下 秀幸
技術顧問	福永陽一郎	外政	大西 育生	メサイア実行	久恒 雅夫
プロデューサー	大久保昭男	〃	西山 知之	〃	米津 吉和
		〃	栗川 佳彦	〃	松田 俊之
		サブ	梶浦 義人	指揮者	林 宏之
		〃	音羽 正利	副指揮者	樋上 雅人
		〃	西川 芳秀	パート・リーダー	
会計	左 嵩 俊彦	Top	瀬戸山俊朗		
サブ	千代沢修一	Second	河上 誠		
ステージ	大林 健	Bariton	福沢 敬		
サブ	西野 章彦	Bass	大西 一夫		
演奏旅行	山田 浩二				
サブ	河相 誠之				

Top Tenor

荒川 匠平 (商・4) 同志社高
 仲達 喜有 (商・4) 総社高
 池田 雅次 (法・法律4) 豊中高
 松本 梯次 (法・政治4) 同志社香里高
 徳山 康彦 (文・文化4) 春日兵高
 久恒 雅夫 (文・英文3) 大分四日市高
 中山 篤 (神・3) 立川高
 瀬戸山俊朗 (法・法律3) 都城泉ヶ丘高
 山口 彦次 (工・工化3) 新島学園高
 米津 吉和 (商・2) 姫路高
 西川 芳秀 (経Ⅱ・2) 県立芦屋高
 音羽 正利 (文・社会2) 秋田市立高
 豊田 幸俊 (工・電気2) 春日丘高
 梶山 恭介 (工・工化2) 洛東高
 荒井 宏之 (法・法律1) 崇徳高
 出水 淑郎 (法・法律1) 四糸畷高
 池尻 隆弘 (商・1) 同志社香里高
 中津 好雄 (経・1) 長野飯田高
 密山 智宏 (文・英文1) 福山誠之館高
 下間裕一郎 (工・化工1) 春日丘高
 鈴木 恒一 (法・法律1) 洛東高
 柳原 修 (工・電気1) 同志社香里高

Second Tenor

神吉 正三 (法・法律4) 龍野高
 森島 敏夫 (法・法律4) 八日市高
 樋上 雅人 (法・法律3) 同志社香里高
 河上 誠 (商・3) 山口高
 西山 知之 (法・法律3) 塔南高
 左 嵩 俊彦 (経・3) 高島高
 亀山 宏 (商・2) 千葉東高
 河相 誠之 (法・法律2) 盈進高
 中野 宏 (経・2) 中津北高
 安藤 善朗 (法・法律1) 岐阜北高
 平田 英之 (工・電子1) 山口高
 福富 義光 (工・化工1) 愛知中村高
 小林 志伸 (工・工化1) 三刀屋高
 黒木 義朗 (商・1) 都城泉ヶ丘高
 楠木 潔 (商・1) 同志社香里高
 中田 英之 (経・1) 高松商高
 坂本 務 (文・文化1) 宇都宮高
 Bariton
 林 宏之 (経・4) 同志社香里高

金森 久宙 (商・4) 四日市高
 二瓶 敏宏 (商・4) 福島高
 恩田 洋 (経・4) 池田高
 寺沢 健一 (工・電気4) 三島高
 広瀬 健 (商・3) 千里高
 福沢 敬 (法・法律3) 筑紫丘高
 栗川 佳彦 (商・3) 花園高
 大林 健 (経・3) 三島高
 大西 育生 (経・3) 同志社高
 下山 正之 (経・3) 四糸畷高
 梶浦 義人 (文・文化2) 塔南高
 山下 秀幸 (法・政治2) 米子東高
 西野 章彦 (文・社会2) 同志社高
 赤井 文三 (文・文化1) 同志社香里高
 福田 規秀 (経・1) 滝高
 今村 幸彦 (商・1) 筑紫丘高
 川口 隆司 (法・法律1) 星陵高
 紀伊 基雄 (工・電気1) 愛知中村高
 南 正晃 (工・機械1) 羽咋高
 落合 均 (経・1) 宇都宮高
 小野 英一 (文・社会1) 芝高
 多々 清爾 (工・工化1) 生野高
 渡辺 修 (商・1) 加納高
 Bass
 稲熊 裕之 (文・文化4) 名古屋西高
 松本潤一郎 (法・政治4) 同志社香里高
 藤井 俊之 (法・法律3) 同志社高
 中野 剛 (商・3) 同志社香里高
 大西 一夫 (経・3) 崇徳高
 矢ヶ崎一之 (工・機械3) 東京学芸大付属高
 山田 浩二 (経・3) 同志社香里高
 千代沢修一 (経・2) 川越高
 松田 俊之 (法・法律2) 前橋高
 中島 修二 (文・社会2) 石山高
 改正 将夫 (工・機械1) 六甲高
 増田 佳昭 (文・社会1) 星光学院高
 小野田 武 (工・電気1) 同志社高
 大下 信雄 (経・1) 同志社高
 沢 敏夫 (文・文化1) 膳所高
 和田 邦治 (商・1) 府中高
 岡崎 康高 (法・法律1) 豊中高
 笹田 泰昭 (経・1) 長田高

グリーンメン自己紹介

Top tenor



荒川匠平 (4回生) クラブを終えるのに悔いは無い。なんて書くとウソになる。やっぱり鉄のノドよ永遠に……だね。

池田雅次 (4回生) 10月×日面接待ちの室「早く歌いたいなあ」
 10月〇日9時前の阪急電車「もっと早く帰りたい」でも合唱は最高、4年目の実感。

仲達喜有 (4回生) 夢破れて涙あり。京冬にして寂寥深し。
 (評) 失恋の痛手が切々と歌われている傑作です。

松本梯次 (4回生) 歌うこと。これが僕の生き甲斐です。

徳山康彦 (4回生) 同志社グリーンクラブのみなさんお別れの時が来ました。でもみんなの生年月日は一生忘れはしない。

久恒雅夫 (3回生) 今年はGLEEバカに徹しました。その後遺症が4月に出るが出ないか、出ないが出るか。

中山 篤 (3回生) M78星雲からやってきた正義の味方ウルトラマン。合唱界にホルタメント旋風を巻き起こす天才。

瀬戸山俊朗 (3回生) 自分にはきびしく、人には優しいグリーンメン唯一人の九州男子。

山口彦次 (3回生) グリー生活3年目、やっと、入っていて良かったと今年の夏思った。それは厚生年金でピンクレディーと共演できたことです。

梶山恭介 (2回生) 練習にあまり出席できなかったのが残念 / 化学系の学生としては、歌の上手になる薬を合成したいなあ。

西川芳秀 (2回生) 2000名のお客様よりも、あなた1人を感動させる歌を歌いたい。

音羽正利 (2回生) パオー!!

豊田幸俊 (2回生) TV出演後、NHKの星と言われるボク。今宵、あなたはサインをもらえるだろうか?では、のちほど楽屋で……!

米津吉和 (2回生) 一度、やめようと思ったグリーン。でもやめなくてよかった。今宵、つくづく感じている僕です。

荒井宏之 (1回生) 仏教高校上りの僕です。僕に会ったら急仏でも唱えて下さい。

出水淑郎 (1回生) ハーイ、お元気?今度の「暖流」っていう曲いいね。頑張てね。さゆりちゃんへ。ウン、これメッセージだよ。

池尻隆弘 (1回生) 明日は、雪が降ると天気予報で言っていました。みんな長靴をはいて傘をもって出かけましょう。

中津好雄 (1回生) 男らしさをその深いしわに刻み込み、一段と低い声でトップを勤める中津君。ベースの僕改正君もマツツヤオ!

密山智宏 (1回生) 一身上の都合により、オペラグラスの使用は堅く御断り致します。〜グリーン〜

下間裕一郎 (1回生) 顔に自信あり! 中身に自信あり! メッセージに自信なし。

鈴木恒一 (1回生) ごくごく真面目に、生きていると、自分では思っているのに、他の人から見ると……

柳原 修 (1回生) 今日はグリーンに入って初めての“定期演奏会”ウワー! 次は“メサイア”ウワー! その次は“試験”クシュン!

Second tenor



神吉正三 (4回生) 微視的に見れば、同志社グリーンクラブは私を大きく成長させたと言える。しかし巨視的には、私の多くの可能性を埋没させてしまったように思える。

森島敏夫 (4回生) 短い貴重な経験だったグリーンとの4年間1%の悔い、99%の満足感。いや、1%の満足感、そして……99%の悔い。

忘年会・新年会・X'masパーティ・各種コンパ

冬のあらゆるパーティー、ご会合にお気軽にご利用下さいませ。

● 学生の皆様に「カレッジ・パーティー」…(飲物・税サ別) 2,000円より

● 世界の宴会シリーズ「北欧コース」…(飲物・税サ込) 3,500円より

、京プリ特製鍋物、大文字鍋、宴会のご予約も承ります。

花と緑のファミリーホテル

京都プリンスホテル

左京・下鴨神社・糺(ただす)の森バス停前

☎(075)781-4141(大代)



駐車場完備

グリーンメン自己紹介

樋上雅人（3回生） 今宵はあなたの心の中にだけ歌いたい。あなたの心とボクの心がとけあった時、そこにボクの心の詩がある。

河上 誠（3回生） 毎年のことながらプログラムのメッセージを書こうとすると手足がすくんでしまっても書けないのです。

西山知之（3回生） 時には挫折しそうになる。何もかも捨てて走り出してみたい。でも大丈夫。あなたがいるから。

左 崎俊彦（3回生） “クラブは組織なり”と考えている人がいるかもしれませんが、“クラブは人なり”とほくは考えています。

亀山 宏（2回生） ああ、青い瞳よ、何故お前は僕を見つめたのだ。今や僕は永久の苦悩と憂鬱から逃れられない。

河相誠之（2回生） 遠い懐かしい風景をそっと想ってみる。今日という日も永遠に再現されぬ宿命をもってそのなかにうずもれてゆく。

中野 宏（2回生） 歌うことが時には苦痛になるけれど、その苦痛が快感に変わったりして…… 結局歌うことは楽しい。

安藤善朗（1回生） ちゃっぴまんくんを愛する未来の法学博士が歌います。GLEE CLUBも巨人に負けないよう頑張ろう。

平田英之（1回生） チケットを買ってくれた人・ようこそ 買ってくれなかった人・お帰り下さい あげた人・いっしょに帰りましょう。

福富義光（1回生） 愛と夢を常に持ち続けたい！

小林志伸（1回生） セカンドのアイドル、しのぶちゃんより愛をこめて、「ボクは加藤ではない。グリーンメンだ。」

黒木義朗（1回生） 河上さん（Sec）さようなら！ 福沢さん（Bari）こんにちわ！ 大西さん（Bass）もうすぐです。

楠木 潔（1回生） 大久保先生、僕をバリトンへ落とすのはやめて下さい！それはセカンドにとって非常に大きな損失ですよ！

中田英之（1回生） 早く瀬戸大橋を架けよう！いまだに船でいなかへ帰るのは僕くらいのもんです。 一香川県民。

坂本 務（1回生） サン＝サーンスの春の讃歌を歌うたびに胸が痛む。ああ、魔のミスタードーナツ事件よ。京都の春は冷たかった。

Bariton

林 宏之（4回生） グリー生活7年間。最後の定期演奏会は何処か空しい。父は天国で僕の歌声を聞いていてくれるだろうか。

金森久宙（4回生） M子曰く「歌はヘタやけど心がこもってはる。ほんまやったらソリストなんやけどなあ……」

二瓶敏宏（4回生） 愛と浪漫の追求に現代を生きる男、二瓶敏宏が貴女に送るメッセージ、べさめむうちよまらずきいの！

恩田 洋（4回生） 誠実で積極的である。これを前面に押し出して就職戦線に勝利を収める。



寺沢健一（4回生） いつの日からだろうか、唱うことがこんなに大きな意味をもつようになったのは。苦しかった四年間ともおさらばか。

広瀬 健（3回生） 田さん、あのソリストどうしたんでしょうね。そう、今回の定演でソロをするはずだった彼ですよ。人をけ落とすためなら……数々の陰謀が渦巻く衝撃の長編推理小説「同グリの証明」君は読んでから聴くか、聴いてから読むか！

福沢 敬（3回生） 練習中、「おい！バリトン、一体どないなつてんねん！」と言われぬかといふくしている無口なパートリーダーです。

栗川佳彦（3回生） 僕のこの歌が、あなたに伝われば幸せだけど、伝わらなくても、やっぱり僕は歌うんだ。

大林 健（3回生） まことちゃんはいこれす。だけしちゃんもとってもよいこれす。～まことおし～

大西育生（3回生） やっと3年です。あと一年もつかな。（ケンタイ・キ）

下山正之（3回生） 現在我々が経験しているような経済的苦境の時代においてこそ、人々は極めて明瞭に、民衆の中に住む道徳力の強度を見極めることができるのです。

梶浦義人（2回生） 一本の道がある。風がさすように吹く。雪がしんと降り。それでも私は肩をすぼめてただ歩いていくだけ……

西野章彦（2回生） 念願がなってバリトンへ。残る課題は単位と彼女。何とかならんかなあ、今日も頑張ります。空から幸せよぶってこい。

山下秀幸（2回生） 静かな夕べの時刻には、たったひとり家でいる。手にはギターをもち。心には甘い夢をもち。そして踊るは、安木節。

赤井 文三（1回生） 皆さんも聞きましたか。グリーのまことちゃんとは僕のことです。パフパフ

福田規秀（1回生） 宿命は後悔の子かもしれない。一あるいは後悔は宿命の子かもしれない。私がグリーンにはいったのは……

今村幸彦（1回生） 京都から福岡の〇子に愛をこめて……今宵の歌声がパンアレンタイにぶつかって福岡へとどきますように。

川口隆司（1回生） 今年からトップ、セカンド、バリトン、ベースの4パートの他にノイズというパートが誕生したそうです。

紀伊基雄（一回生） 私はこのグリーンクラブにあつて清く正しく美しく生きるのだ。これが青春。

南 正晃（1回生） ああグリーンに入っていてよかったと3年後に言えるようになりたいわあ……！ 能登のカキ大将の子分より。

落合 均（1回生） 定演のチケット、ノルマ28枚！ グリーンクラブの“たたりじゃあ”

小野英一（一回生） こんな声でグリーのステージに立てるかどうかが不安でしょうがない僕です。

多々清爾（1回生） ハーモニーを少しも気にせず自己本意のペースで歌えばいいのだ。ほくのいないグリーンなんて……

渡辺 修（1回生） Do you love me, as I love you ? Are you my life to be my dream come true ? ってあなたに言ってみたい。

Bass



稻熊裕之（4回生） さるべき祝事あり、いとおもしろう姿ひたれば赤垣を うち出てみれば鴉川ぞ いざ渡らばや 夏ならねども

松本潤一郎（4回生） なんとかここまで、ぐりいばか……あしたもやっています。

藤井俊之（3回生） 遠く群なして飛ぶ鳥の羽音を聞く一瞬の朝のイリュージョンを 人に伝えてみたい衝動

中野 剛（3回生） 阪神の吉田はやめたけど、僕は3年間頑張ってきた。これからも歌い続けると。

大西 一夫（3回生） 今年も破れた阪神優勝の夢。しかし、今夜は素晴らしい夢を御来場の皆様に！

矢ヶ崎一之（3回生） ここに登場する団体、個人等は全てフィクションであり、実在する団体、個人等とは何ら関係ありません。

山田 浩二（3回生） この演奏会における収益は同志社グリーンクラブならびに、私山田浩二がすべて頂きます。

千代沢修一（2回生） テリケートな私には、同グリの白痴的とも言えるあのダイナミックについていけません。でもそれが魅力なのかも。

松田俊之（2回生） 元氣です。

中島修二（2回生） ああ……今日も歌いつづけ。でも生きてる実感。それだけでいいじゃないか……。

改正 将夫（1回生） 乙女座の彼へ愛の眼差しを注いで今宵のステージを見えています。モナリ座の乙女より。必殺代筆人は匿名中津君。

増田佳昭（1回生） 人は私にこう言う「会場準備の鬼」「外面的存在価値のみの男!?!」「太つ腰」そして「音はずすな!」

小野田武（1回生） あーあ疲れた。しんどい。もうあかん。と言いながらも毎日練習に来るんだから。

大下信雄（1回生） グリーの証明！決して1人では聞かないで下さい。たたりがあります。この文章が印刷される頃は「古い!」と言われるかなあ。

岡崎康高（1回生） 今宵、あのオリヅルコンの風鈴の音に負けるとも坐らぬ響きをあなたのもとに。

沢 敏夫（1回生） れぐうゆのきあのわさつたぎしりけられしはれわあもにみきなるここ

和田邦治（1回生） いつも淋しく、辛いけれど じっとそれに耐えている宇野功芳（音楽評論家）とフルトベングラーのファン。

笹田泰昭（1回生） 酒と女と音楽をこよなく愛するロマンチスト。

ステージの出来映えを変えるコート

本日のステージコート
作成の店

司 屋 株 式 会 社

大阪マーチャндаイズマート11階
TEL 06 (943) 3100

手打うどん
さぬき

京の都に本場さぬきの味を……

うどんすき
丼物も御ざいます

四条河原町阪急百貨店
7F 食堂街
TEL 075 (255) 3534

この一年のあゆみ

1976年		
12月14日	同志社グリークラブ第72回定期演奏会	京都会館第1ホール
12月17日	広島メサイア演奏会	広島市公会堂
12月20日	日本ライトハウス第1回チャリティショー同志社・関学グリークラブ演奏会	大阪毎日ホール 京都会館第1ホール
12月25日	第12回全同志社メサイア演奏会	
1977年		
2月15日	同志社グリークラブ第72回卒業生のためのフェアウェル・コンサート	京都会館第2ホール
2月18日	四条綴高等学校演奏会	四条綴高校
3月22・23日	同志社大学卒業式参列	同志社栄光館
3月25～29日	春季合宿	皇子山ユースホステル
4月2日	朝日テレビ「土曜の朝に」出演	朝日テレビスタジオ
4月5・6日	同志社大学入学式参列	同志社栄光館
4月18日	関西テレビ「奥様リビング」出演	関西テレビ スタジオ
4月29日	関西六大学合唱連盟運動会	大阪城公園
5月21日	毎日放送「八木二郎ショー」出演	毎日放送千里丘スタジオ
5月29日	第14回京都合唱祭	京都会館第1ホール
6月19日	同志社・関学グリークラブ交歓演奏会	大阪フェスティバルホール
6月25日	第26回東西四大学合唱演奏会	東京文化会館
6月26日	〃	新宿厚生年金会館
6月26日	「夕やけの歌」レコーディング ー東芝EMIー	東芝EMIスタジオ
7月1日	千宗室氏勲章受賞祝賀パーティー出演	京都ホテル
7月23日	毎日放送「オーケストラがやって来た」出演	京都会館第1ホール
8月3日	立教大学グリークラブ大阪公演賛助出演	大阪厚生年金会館中ホール
8月8～11日	夏季演奏旅行（静岡・高崎）	
9月4日	NHK近畿 '77「歌だ若さだにしひがし」録画	大阪NHKスタジオ
9月9～14日	夏季合宿	信州・野尻湖
9月21・22日	グリークラブ アルバムPart II レコーディングー東芝EMIー	大津市民会館
10月3日	丸勝株式会社創業50周年記念パーティー出演	都ホテル
10月9日	〃	京都ロイヤルホテル
10月22日	京都教育大学附属小学校演奏会	附属小学校
10月25日	「ウィンナー ワルツの夕べ」出演	大阪フェスティバルホール
10月26日	高島高等学校演奏会	滋賀県高島高校
10月28日	京都芸術短期大学ファッショショ出演	京都教育文化センター
11月3日	関西六大学合唱演奏会	大阪フェスティバルホール
11月7日	加古川演奏会	
12月10日	同志社グリークラブ・クローバークラブジョイントコンサート	大阪毎日ホール
12月14日	同志社グリークラブ第73回定期演奏会	京都会館第1ホール
12月18日	姫路クリスマスコンサート	
12月24日	全同志社メサイア	京都会館第1ホール
1978年		
2月14日	同志社グリークラブ第73回卒業生のためのフェアウェルコンサート	京都会館第2ホール

GREETING

※グリーOB、現役との joint concert に寄せて

同志社グリークラブOB会幹事長 小田泰弘

同志社グリークラブOB会が昨年10月17日発足し1年余りが経過いたしました。今、ここに今日返歩んで来た道をふり返ってみますと、表面には出ませんが、この大きな団体を支えていくために数多くの人達が、それぞれ多忙な仕事の合間に大へんな時間と労力を提供して下さいてゐることをまずご報告いたします。OB会活動の一環として実現した本日の演奏会にも、平野君を実行委員長とし、OB、現役共々努力してまいりました。年末を目前にして、社会人である私達は仕事の上では多忙になるのはわかっていながら、あえてこの演奏会を開くことを決心したのは、OBの結束と親交、又現役との交流をより大きく持とうという皆の頼いの現われであると思います。コーラス団体である以上、やはり歌いたいと云う気持は誰もが持っていることと思います。去る7月3日東京において開かれた四大学合同演奏会を契機として、常に歌いたいという気持が継続し、練習を続ける決心を与えてくれました。本日のOBの出来ばえはどうであれ、OBはOBなりに真剣に且つ又楽しく歌うために練習を重ねてまいりました。

本日の企画が将来のOB会の発展に結びつき、又、現役諸君のよき後ろ楯となれる団体に育つことを願う次第であります。

※今宵のステージが

同志社グリークラブ幹事長 中山 篤

今宵ここに皆様方のあたたかい御支援のもとに第73回定期演奏会を迎えることができますことは、部員一同この上もない喜びとするところであります。

現代の社会状況、特に学生という弱い立場の中においては、自分自身を強く行動させるというのはなかなか困難なものであると錯覚しがちであります。しかしながら、この昏迷と停滞を続ける現代社会にあつてそれは自己の甘えにしか過ぎないのであります。我々は私立同志社大学の数多いサークルの一団体として多くの問題に対して目を閉じてはならないのであります。

グリークラブは合唱を行なう団体であります。もちろんそれにとどまることなくいろいろな問題を論じ合う場として存在しています。もし技術の追求のみを指向するのならば、それはもはや学生団体とは言えなくなるのであり、技術的なものよりも、むしろ社会的、文化的な要素の占める比重が大きいためこそ学生団体としてグリークラブは存在するのであります。もはや、「メンタルハーモニー」「伝統の上に立つて」「歌うための歌」等々といった文句は、我々にとって空虚な響きしか残さないのであります。合唱をするために歌うとか、演奏会のために練習するとかいうのは、決して我々の目標とするところではなく、それに至るまでの過程を踏んだ上での結果としての表われなのであります。相互討論、相互批判の結果としての音楽を我々はこれからも続けていくつもりです。

今宵のステージが我々の問題提起となれば幸いです。

きものサロン 翁 寺 世 大阪市南区心齋橋2-31 TEL (211) 1589	ヘアカットサロン アらせ 泉北ニュータウン原山台 (原山台近隣センター) TEL (0722) 99-3575
呉服・和装小物 アクセサリ 寺 世 大阪市東住吉区駒川町8-29 (針中野駅前商店街) TEL (697) 5515	喫茶 アらせ TEL (211) 1580

食べて、飲んで、ワイワイできて、若いあなたにピッタリ！

——コンパのご予約も承わります——



コーヒー・パブ

リオン

河原町三条上ル

京都朝日会館【地階】
TEL (075)223-2318

「おっ、これや。」

★幹事さんお得です。

あれこれとお迷いの幹事さん！
京都・祇園ホテルならではの「忘・新年会パック」ができました。
祇園のど真中で、たらふく食べて楽しんでこのお値段。幹事さん無料の特典もあります。お申し込みはお早目にどうぞ。

京都祇園ホテル

忘・新年会パック

●料金・メニュー

2900円(税サ込) 飲物付

★20名以上でご利用の場合は幹事さん1名無料

3500円(税サ込) 飲物付

★15名様以上でご利用の場合は幹事さん1名無料



「京のこころにふれる」
京都祇園ホテル

お問い合わせ・ご予約——(075)551-2111(代)内線109(宴会係)



ご宿泊・ご宴会・お食事に



京都ホテル

京都・河原町御池
TEL211-5111

COFFEE SHOP CHAIN
ROMAN

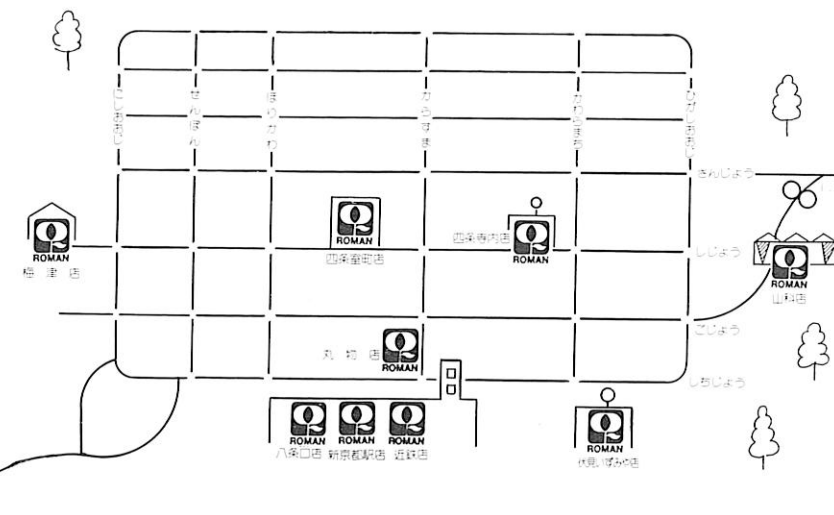


誘われたロマンへ今日は誘ってる



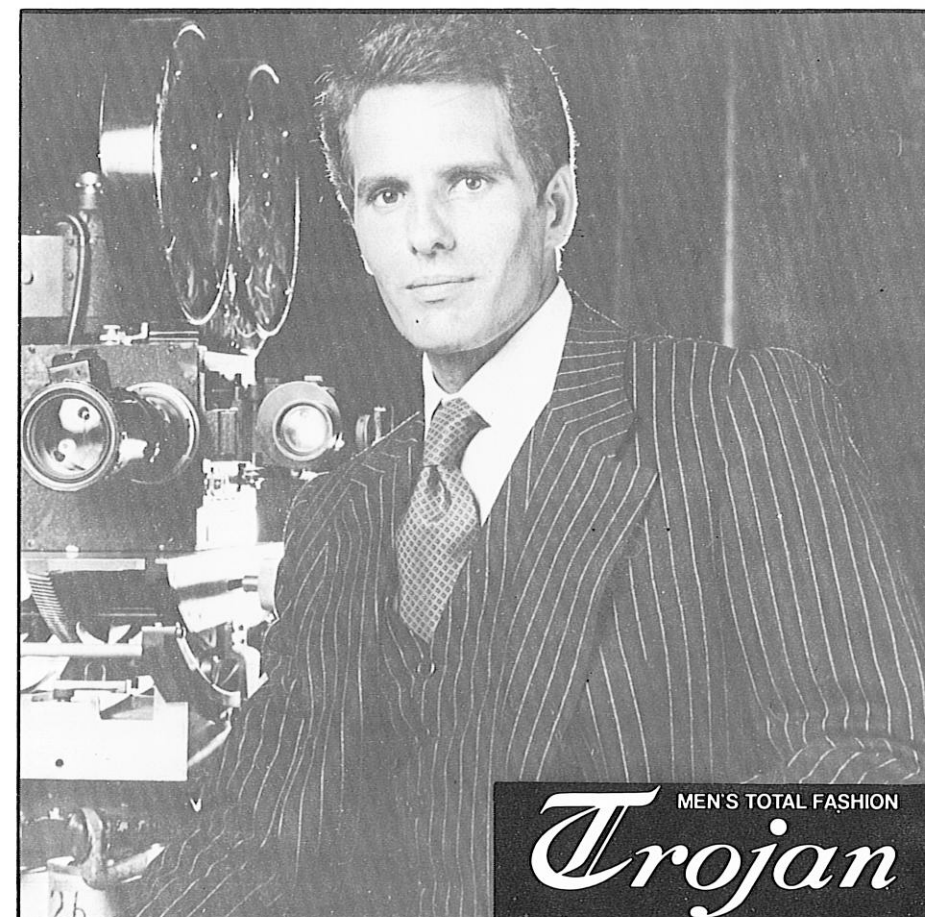
セイボンスチェーン

岡山 — 早島店
新保店
藤田店



ロマンフーズ

ロマンフーズ 株式会社 〒607 京都市東山区山科大塚北溝町30 ☎075(593)6464~7



しなやかなからだに
トロージャン
毎日をいきいきと生きるからださえあれば、
何を着てもよく似合う。
本当の個性とは、そういうものではないだろうか。
肩をはらずに、おおらかに生きるあなたにトロージャン。

MEN'S TOTAL FASHION
Trojan

大阪・東京・京都・神戸・町田
大丸
和歌山・新長田・八王子

十 二 三 家

祇園花見小路

SERVICE IS OUR BUSINESS

京・下京区・七本松七条上ル
☎ 313-7395

澤田自動車整備工場

53年4月開講

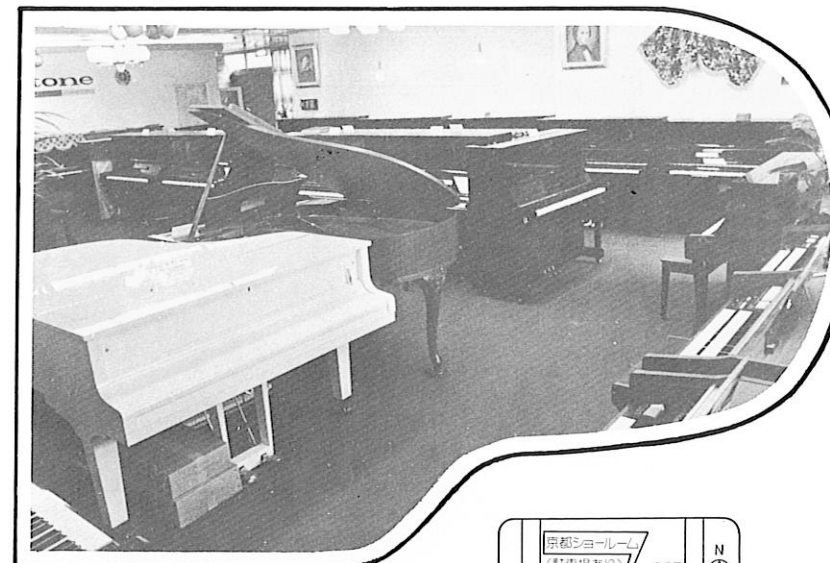
洛西アカデミー音楽院

児童音感教育科・グループレッスン科・個人レッスン科(ピアノ・エレクトーン)

設置地 国鉄向日町駅下車北300m
連絡先 京都市左京区一乗寺出口町2 ☎711-0371 富岡

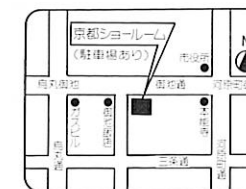
ピアノ 音楽の広場 電子オルガン

新規購入から修理・調律・移動まで
専門技術者がすべての御相談に応じます



国産・輸入各社一流メーカー品を
大量仕入・薄利多売で大奉仕

協立楽器(株)
京都ショールーム
☎075(255)0220~0221



烏丸御池東入ル南側(京ビル1F)
10:00AM~6:30PM 水曜日定休、日・祝日営業

「純」は
誇り高き国民酒

宝焼酎
純
70 Proof
(35度) 720ml — 580円

※「純」は口あたりのよいお酒ですので、適量で
お楽しみ下さい。

※宝焼酎は、いま日本で
いちばん多く飲まれている焼酎です。



日本の純粋派

飾りはいらない。構えもいらない。それよりも本質だ。自然さだ。世界中で、若者たちを中心に、ナチュラル&ビューを希求する心がたかまっています。酒の選び方にもこの心が反映、透明無垢の純粋な酒が、これまでになく求められ、愛されるようになりました。ウオッカ、ジン、テキーラ、マオタイ酒、アクアビット、シユタインヘーガー……どれも気取りのない素朴な酒。いわば各国の焼酎です。そして日本にもいま、純粋な焼酎「純」が登場しました。

世界はいま、純粋の時代へ向かっている。

宝酒造株式会社